

新しい生活文化を発信する

アム

主な記事

2面 特集2/配偶者特別控除一部廃止…あなたはどうする?
 3面 お助けアドバイス
消費生活相談コーナー
 4面 立川・この人
アムインフォメーション/編集後記

12/1 NO.8

2003(平成15)年
年3回(8月・12月・4月)発行

発行/立川市女性総合センター
 企画・編集/市民編集委員
 (〒190-0012)立川市曙町2-36-2
 ☎042-528-6801 FAX042-528-6805
 e-mailアドレス tc-aim5@m-net.ne.jp

特集1

ボランティア・再発見

阪神・淡路大震災の時、日本中の人々に自分でも何かできるのではないかとこの気持ち

自分の生活に無理のない程度で活動しているため、10年以上続いているそうです。

が湧き上がり、ボランティア活動のすそ野が広がったと言

代表の師岡恵美子さんがボランティアを始めたきっかけ

は「姑が病院に一人で行くと言われても、ボランティアはよくわからない、ボランティアってなに? たい

は「姑が病院に一人で行くと言われても、ボランティアはよくわからない、ボランティアってなに? たい

へんそうだ、と思っっている人はいませんか。

今回は、ボランティア活動を通して地元で役割を見出し、生き生きと活動している方々にお話を伺ってきました。

人の役に立つ

ボランティアグループへ木苺は、都営住宅の一角にある柏地域福祉サービスセンターで、デイホームを利用する高齢者の方たちの食事・入浴などの介助を手伝っているほか、陶芸・習字などを指導しています。女性25人、男性3人が、週に1日2〜3時間、

メンバの竹内さんは「97歳の義父と暮らしていた時、ボランティア活動をしていたお陰で父とべったりした関係にならずにすみました。活動を通して、ホームでは娘のように声をかけてもらい、おしゃべりする中に喜びを感じています。誰でもこの喜びを経験してほしいと思います」と



デイホーム利用者の作る陶芸も今では家族の方から「次はこんな形に作って」とリクエストが来るまでに上達しています。

今年で40周年を迎える「立川市手をつなぐ親の会」が始めた「おもちゃ図書館ピコ」は、立川市総合福祉センター内の保育室で、知的障害児が集まって生き生き遊べるようにと活動しています。この日、子どもたちは、カラオケや音の出るおもちゃ、動く電車で楽しそうに遊んでいました。

運営委員の立田由紀子さんと齋藤勝子さんにお話を聞きました。「子どもたちが友だちに会えるのと同時に親同士のおしゃべりの場と考えています。もつと小さい子どもにも遊びに来てほしいし、ボランティアも募集しています。障害児と健常児の共生をめざしていますが、場所が狭いのが難点です。子どもたちを健やかに育てたい一心で、ここまでやってきましたが、今までの苦労や忙しいことも忘れ

るほど楽しいです」と、2人の姿勢はとて前向きです。



「学習とボランティアの会たちかわパソコン倶楽部」は、同じ総合福祉センターでパソコンの相談会や勉強会を行っています。代表の岩間直人さんは「社会福祉協議会に企業から寄贈された100台の中古パソコンを利用したパソコン教室を開くことになり、ボランティアに応募した男女25人余で今年の6月にスタートしました。市のIT講習会はその後のフォローがないため、困っている人の相談に乗ったり、トラブル解決のお手伝いをしていきます。今後もボランティア活動を軸として、会員のPCスキルの向上

や、ボランティアに積極的な企業と連携ができればと考えています」

地域に溶け込む

ボランティア活動は、地域社会に溶け込める場所でもあります。



「学習とボランティアの会たちかわパソコン倶楽部」は、同じ総合福祉センターでパソコンの相談会や勉強会を行っています。代表の岩間直人さんは「社会福祉協議会に企業から寄贈された100台の中古パソコンを利用したパソコン教室を開くことになり、ボランティアに応募した男女25人余で今年の6月にスタートしました。市のIT講習会はその後のフォローがないため、困っている人の相談に乗ったり、トラブル解決のお手伝いをしていきます。今後もボランティア活動を軸として、会員のPCスキルの向上

皆さんに共通しているのは、人の役に立つが、自分自身のためにもなるということです。それには、自分のできる範囲で無理をしないことが長続きの秘訣のようです。

世界が広がる

ボランティア精神にもとづいて有償の活動をしているグループもあります。へたすけあいワーカーズこつとんは、生協の福祉活動から始まり、会員、賛助者から出資金を募り、みんなで経営し労働を担うワーカーズコレクティブという形態をとり、家事援助サービスをきちんとした仕事ととらえて活動しています。

会長酒井義子さんは「利用者宅を訪問するので、手作りのきめ細かい対応を心がけています。仕事ですから甘えは許されません。仕事になったことよって人との出会いが増え、さまざまな価値観を知り、自分の世界が広がりました」

共に生きる



空き店舗事業の一環としての子育て支援で、市と日活大通り商店会と連携を取り、地域の拠点となる「ユニバーサルサロン・フリールームことこと」も最近オープンさせました。地域に根ざした質のよい活動を地道に続けていきたくと将来を見据えています。

従来は、ボランティアという、「してあげる人」「してもらう人」ととらえられることが多かったように思います。今では、生き方として、ボランティアで好きな時間にやりたいことをやる、自分の特技を活かすなどの考え方が変わってきています。共に支え合っていると実感できることが喜びとなり、生きる活力となつていくようです。

「共に生きる」社会づくりをしていきませんか。きっと、誰かがあなたを待っていますから。

立川このト

ゆりかごから墓場まで安心して暮らせるように、
自治会活動を盛り立てています。



佐藤良子さん
1941年生まれ。'98年より
大山自治会会長。1200世帯
の大山団地住民の快適な生
活のために、忙しい毎日を送る「おっかあ」です。

●自治会活動の始まりは、くじ引きだったそうですね。

入居して2年目の'77年に、抽選で役員に当たってしまいました。まだ30代の子育て真最中で大変でしたが、周りの方たちがとても親身になって協力してくれました。そのお陰で、子ども会の会長やPTA活動も続けてきました。大変助かったのですが、その後「大山MSC子育て支援センター」を設立し、出産時の入院やPTA活動の時など、無償で子どもを預かって、若いお母さんたちが生き生きと地域に溶け込めるよう支援しています。この活動に対して、都から補助金と、国から奨励賞をいただいたので、ユニフォームとエプロンを作ることができました。

大山団地の建て替えの際には、東京都と交渉して、住民の要望を形にしてもらいました。これからの自治会は会費だけで運営するのではなく、事業も必要と思ひ、行政と委託契約を結び、駐車場や上砂公園の管理を地域住民同士が協力して行っています。その結果、住民の意識も変わり、ゴミや路上駐車が大幅に減りました。

全世帯が自治会に加入していますので、住民がゆりかごから墓場まで安心して暮らせるように、いろいろなアイ

ディアを実行して、楽しい人間関係と信頼関係を築くための人づくりを心がけています。

●初めての女性の会長ということ、大変なこと多かったのでは？

最初は「女のくせに、女だてらに」とずいぶん言われましたが、今では一緒に協力してくれています。それに主婦としての視点を活かして、敬老の日に配る記念品のお茶からパソコンまで、私は必ず値段の交渉をして、少しでも安く購入するようにしています。住民の相談や要望に答えられるように市議会の情報や聞き、市政の把握やさまざまな条例を勉強して、努力を怠らないようにしています。

●これから自治会活動を始めようと思う方に一言お願いします。

私は自治会活動をボランティアと思っています。皆さんから受けた恩を返すつもりで、今までやってきた。自分のできることをやるのが、挑戦になり刺激になり体験になり生きがいになると思います。楽しんでやるうという意識を持つことも大切です。支援してくださる会員の方々や地域の皆さんに感謝をし、思いやりの心もち、生涯の学び場としてよき仲間をつくり、人のため自分のため、ボランティア活動を続けていきたいと思っています。この団地に住んで本当によかった、第二のふるさとと思ってもらえれば、自治会活動を全力投球で盛り立てていきたいと思っています。

アトム インフォメーション

アトムは、男女共生社会を推進し、女性も男性も豊かに生き生きと暮らせる社会をつくるための活動の拠点です。

第2回くらしフェスタ立川

アトムで発見 わたしのくらし
—楽しもう スロー&シンプルライフ—

くらしの中の身近な問題を取りあげてさまざまな情報交換や体験のできる催しです。

日時 2004年2月21(土)・22日(日)
会場 女性総合センター
講演会 「食べることは生きること
—楽しい食へのお誘い—」など
講習会 ビーズ講習会、アロマセラピー、指人形作り、アクリルたわし作りなど
展示 「食の安全を守るために」「容器リサイクル法」「電磁波」など

他に、赤ちゃん体操・100円カレー・喫茶コーナー・お茶席・ポスター展・消費生活相談・骨密度測定・おもちゃの病院などを予定しています。2月23日～29日はフェスタ週間です。期間中、いろいろな講習会などが行われます。

昨年の様子



くらしフェスタ立川 講演会「食べることは生きること—楽しい食へのお誘い—」

“食”の重要性を実感し、自分の食生活について見直してみませんか。講師はテレビや雑誌などで活躍中の福島敦子さんです。

日時 2004年2月21日(土)
午後2時～3時15分
会場 女性総合センター
1階ホール



*事前申し込みが必要です。
福島敦子さんプロフィール
キャスター・エッセイスト。NHK「ニュース・トゥデイ」、TBS「スペース」などに出演。現在、テレビ、雑誌、執筆とマスコミで幅広く活躍中。著書に「これが美味しい世界のワイン」等。松江市民環境大学の学長も務める。

立川市消費者問題研究員の募集

消費生活に関する身近な問題について一緒に考えてみませんか。今年度は「スローフード」をテーマにグループ活動をしています。対象は市内在住の20歳以上の方。

活動期間 2004年4月～2005年3月(予定)
募集人数 20名
締め切り 2004年3月31日

*謝礼はありません。

第16回アトムフォーラム2004

日時 2004年3月7日(日)午後1時30分～
会場 女性総合センター1階ホール

(アトムフォーラム)
男女共生社会の実現をめざして、毎年実施しています。今回は桂文也さんの講演会を予定しています。

第8回マイメッセージ～5分間わたしの主張

女性による意見発表会を行います。

ワークショップ

「男女共生社会推進のためのおしゃべり会」を開催しました。

実行委員による人形劇をきっかけに話がはずみました。参加者の意見は第4次男女共生社会推進計画策定に役立てていきます。



お知らせ

女性総合センター年末年始のお休みは2003年12月28日(日)から2004年1月4日(日)までになります。新年は1月5日(月)より業務を開始(施設利用可)します。

1月の抽選受付日は6日(火)です。

☆このインフォメーションに掲載した催しや募集についての詳細は、市広報等でお知らせします。

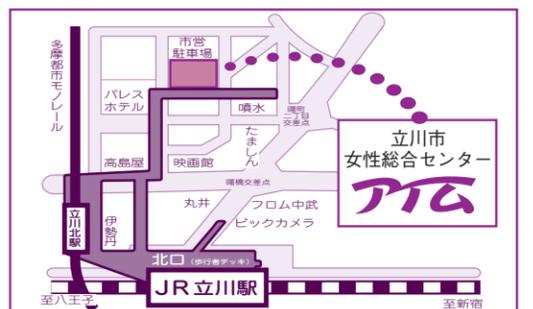
お問い合わせは、女性総合センター
(TEL 5 2 8—6 8 0 1) へ。

編集後記

●会社と違って、会長が自らお茶をだしてくれるのが、ボランティア団体のよいところ。年代、経歴、性別にこだわることなく、お互いのよさを認め、協力していくことは、これからもっと必要とされることでしょう。ボランティアの未来は明るい！(K・K)

●今回は「ボランティア」と「配偶者特別控除」の記事を取り上げました。なるべく時流にかなった問題を載せたいと思っています。価値観の多様化に伴い、読者の方々もさまざまな感想をお持ちになったことと思います。この紙面が、皆さんと共に考える場になることを望んでいます。(T・K)

●出産を期に、苦渋の決断で仕事を辞めたのが16年前。あの時辞めていなければ…と制度が整っていれば…と過去を振り返っても仕方ない。じゃあこれから働こうと思っても、やりがいある仕事があるのだから。アトムの編集委員でやりがいを感じているのが幸せかな。(A・K)



情報紙「アトム」に関するご意見・ご感想をおよせください。